２０１８年（平成３０年）６月１２日　火曜日

デーリー東北　１２面　掲載

第65回 高校野球 春季東北大会

▷ 第4日、最終日 ◁

聖光V 県勢2校準決勝敗退

第65回春季東北地区高校野球大会は10、11日、青森市営球場で準決勝と決勝を実施した。第4日の準決勝で、青森第1代表の八学光星は東北（宮城第1）に6―9で敗れ、第2代表の弘前東は聖光学院（福島第1）に4―11のコールド負けを喫した。最終日に行われた決勝は、聖光学院が2―1で東北との延長戦を制し、6年ぶり3回目の優勝を果たした。

10、11日の結果

▽準決勝
聖光学院11―4弘前東（8回コールド）
東　北9―6八学光星
▽決勝
聖光学院2―1東　北（延長10回）

▽決勝
東北 000000100 1 1×0
聖光学院 000010000 0 2
（延長10回）
▽三塁打 松本（東）▽暴投 中山（東）
▽試合時間 2時間17分

光星 中盤に崩れる

準決勝

八学光星 260200011 9
東　北 30003201× 6
（八）後藤、伊貝、中村、福山―松谷
（東）古川原、阿部真
▽本塁打 長南（八）杉澤 3（東）
▽二塁打 東、松谷、吉田（八）西田（東）
▽試合時間 2時間17分

【評】八学光星は1点を追う三回、長南の本塁打で逆転し、主導権をつかんだかに見えたが、五回に計6安打で3点を失った。4人で継投するも相手打線の勢いを止められず、最後は力尽きた。東北は3併殺を奪うなど、堅実な守備で相手の反撃を絶った。

長南の逆転弾実らず

4投手で9失点 東北打線に力負け

「福山優希に次ぐ投手を育てる」との仲井宗基監督の方針で、エースに頼らない布陣で試合に臨んだ光星。4人が登板したが、相手の強力打線に翻弄され、攻撃も精細さを欠いた。仲井監督は「バッテリーを中心に苦境を乗り切る攻守に課題が見えた」と振り返った。

「失点は覚悟の上だった」という仲井監督の予想通り、試合は立ち上がりから点を取っては取り返す展開。光星は初回先制したものの、その裏に逆転を許した。

1点をリードされて迎えた三回1死2塁の場面、主将長南佳洋がバックスクリーン直撃の本塁打を放って試合をひっくり返した。2年の先発後藤丈海は初回先頭打者に本塁打を浴びたが、粘投でその後の3イニングを無失点に抑えた。

一進一退で迎えた五回、勝負強さを発揮したのは東北だった。「どこに投げても打たれる気がした」。マウンドで相手打者の気迫を感じ取った後藤だったが、制球が甘く、得意の低めのスライダーも決まらず、同点打を浴びて降板した。

その後、継投した投手陣も打ち込まれ、八回にはついに福山が登板することに。そのエースも内角の直球で勝負に出たが、本塁打を打たれた。4投手をリードした捕手の松谷隆誠は「配球に工夫が足りず、投手の持ち味を生かせなかった」と唇をかんだ。

「全ての面で強化が必要」と仲井監督。攻めの野球に加え、忍耐強い守備に磨きを掛けながら夏に備える。

（里村静）

【準決勝・八学光星―東北】3回八学光星1死2塁、長南佳洋が中越え本塁打を放ち、4―3と逆転する＝青森市営

デーリー東北新聞社提供